

関

西

大阪府東大阪市の町工場が若者向けのものづくり教育に力を入れている。後継者難と人手不足が深刻化するなか、製造業の魅力を伝え、将来の担い手確保につなげるのが狙いだ。市も関連団体や市民を巻き込んで横断型の交流会を初開催するなど、バックアップに動き出した。

「工場見学を受け入れませんか」。電気自動車の試作部品などを製造する繁原製作所(東大阪市)は10月初旬、修学旅行生を企業に紹介する「大阪モノづくり観光推進協会」の依頼を受けた。

従業員45人で、レース車両の部品もこなす同社では業績拡大に人手が追いつか

東大阪の町工場、学生の見学増

ものづくりの魅力若者に



ない。「将来の新卒採用につなげられれば」と繁原秀和取締役は依頼を快諾した。

「仲人」を務めた同協会の大西正曹理事(関西大学

ノースヒルズ溶接工業の北坂社長から説明を受ける新潟県工業高の生徒
(東大阪市、10月)

名譽教授)は鉄道部品メーカーのエクセラント(同市)などに工場見学の受け入れを訴えてきた。「高校生らに関心の高い鉄道や自動車業界を回れるようにしたい」。金属加工や伝統工芸が中心だったコースを拡充し、約60ある受け入れ企業・団体を増やす考えだ。

2012年に北坂規朗社長らが起業したノースヒルズ溶接工業も見学を積極的に受け入れる。10月には新

将来の担い手確保へ力

新潟県工業高校の2年生が「ものづくりの現場修学旅行で訪れ、防護マスクを磨けば人工知能(AI)を付けてレーザー溶接をI」に仕事を奪われること見学した。「様々な部品はない」

東大阪で作られているのが市は東大阪・高井田地区わかった」と男子学生。北の住民らによる高井田まち坂社長は「当社で働きたい、づくり協議会、教育委員会起業したい」と子供が出など約10法人・団体を集めてきてほしい」と期待する。初の横断的な交流会「青少年東大阪市の製造業の事業年向けモノづくり体験活動所数は約6300カ所と都開いた。ものづくりへの関心を高める方法について活発に議論した。

各法人・企業が情報交換を進めることで「合同イベントなどの活動が広がるよう期待したい」(河内俊之・東大阪市経済部長)。継続的に交流会を開くほか、イベント情報を市民らに広く伝える仕組みも探る。